

令和7年3月14日（金曜日）

予算決算委員会建設分科会

第5委員会室

出席委員

井上太良、重田一政、川島淳良、宮下和也、
竹尾浩司、神頭敬介、松岡廣幸、小田響子、
岡部敦吏

【建設委員会（上下水道局）の審査】

再開

11時00分

上下水道局

11時00分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和7年度姫路市一般会計予算
- ・議案第9号 令和7年度姫路市水道事業会計予算
- ・議案第10号 令和7年度姫路市下水道事業会計予算
- ・議案第17号 令和6年度姫路市水道事業会計補正予算（第2回）
- ・議案第18号 令和6年度姫路市下水道事業会計補正予算（第1回）

質疑

11時38分

（質問）

老朽管の管路更新の実績と目標について、令和7年度は管路更新延長を23キロメートルと予定しているものの、事業費として令和6年度実績見込みは67億円、令和7年度予算額は53億円であり、前年より減少しているように思うが、事業実施に当たり支障はないのか。

（答弁）

令和6年度は甲山幹線のシールド工事に係る事業費として約19億円を計上しており、当該シールド工事分を除く老朽管対策に係る事業費としては、令和7年度は令和6年度と比較して10億円程度の増額となっている。そのため、管路更新延長としても令和6年度と比較し3キロメートルの延長となっている。

令和6年度と比較して、予算額としては減となったように思われるが、実際には管路更新工事は順調に進んでいる。

（要望）

今後も老朽管の管路更新をしっかりと進められた

い。

（質問）

今後の不明水対策はどのように進めていこうと考えているのか。

（答弁）

令和7年度は、下水管渠の系統や水路などの基礎調査と不明水発生領域の絞り込み手法を検討する。

本市の有収率が、全国及び県の平均と比較しても低く、改善の余地があることは認識している。

今までは、老朽管を発見しては更生や入替えを行うほか、調査で偶然不明水を発見すれば対応するといった対応を行ってきたが、令和7年度からは最も有収率が上がる手法の不明水対策計画を策定し、対策事業を進めていきたいと考えている。

（要望）

不明水量が増加すると処理コストがかかり、下水道使用料の増加につながる可能性があることから、不明水対策をしっかりと進められたい。

（質問）

下水道資源の積極的な活用を図るため、事業実施に伴い生じる下水汚泥や下水熱等の利用を拡大することについてどのように考えているのか。

（答弁）

まず、下水汚泥について、家島以外の本市の下水汚泥は、その大部分を中部析水苑及び東部析水苑で処理しているが、本市から排出される下水汚泥の特性として皮革汚泥も混入しており、重金属の割合が高くなっている。

本市で排出される下水汚泥の大部分は、最終的には県が管理する兵庫西スラッジセンターで焼却処分が行われていることから、下水汚泥の肥料化に当たり、当該センターで実施するのが現実的な対応ではないかと思う。

同センターには下水汚泥を処理して肥料として利用するための設備が設置されておらず、肥料の国産化と価格の抑制に向け国が推進している下水汚泥の肥料化については行っていないものの、今後、県が老朽化した同センターを改築する際には、当該設備の設置が検討されるのではないかと考えている。

しかしながら、検討に当たっては、本市の下水汚泥に重金属が含まれていることは大きな課題であり、肥

料化を実施したときに採算が取れるのかということも考慮されるのではないかと思います。

次に、下水熱の利用について、下水熱は都市域に配置された下水管や下水処理場等の熱を利用するものであり、採熱できるエリアに限られる。現在、当該エリア周辺で下水熱を利用したいという民間事業者等がおらず、検討が進んでいない状況である。

最後に、下水処理水の利用について、現在、その一部を中部衛生センターに売却し、収益を得ている。

下水処理水を利用したい民間事業者等に積極的に売却することは可能であるが、下水処理水を利用するための配水管を利用施設まで引き込んでもらう必要があることから、実際に利用したいという事業者等からの声があれば、まずは相談に乗りながら事業化を検討していきたい。

(要望)

下水道事業は、令和 7 年 4 月から下水道使用料を値上げするなど厳しい経営環境に置かれており、未利用資源の有効活用等を通じて自主財源の確保に努められたい。

また、上下水道に関する広報に関して、広報誌「M I Z !」を発行し、オリジナルキャラクターを登場させ制度等の解説を行っているが、今後、より分かりやすく、親しみやすい広報活動に向けて、漫画仕立ての解説を取り入れるなど、幅広い年代層により理解してもらえるようにしっかりと取り組まれたい。

(質問)

配水管布設工事に係る新規拡張費として約 7 億円が計上されているが、水道管を 1 メートル布設するのに幾らぐらいかかるのか。

(答弁)

給水管や消火栓、バルブ等の数など現場状況によって異なるため一概には言えないものの、管径 100 ミリメートルで 1 メートル当たり 12～13 万円、管径 200 ミリメートルで 17～18 万円、基幹管路で使用する管径 300 ミリメートルのものでは 26～27 万円として予算計上している。

(質問)

下水道管も同様の価格であるのか。

(答弁)

浸水対策用の大きな土管や統合管は何百万円単位

で費用がかかるが、未普及対策で各家庭に引く下水道管では、20 センチメートルの塩ビ管 1 メートル当たり 10～15 万円、会所 1 か所につき 30～50 万円かかる。

(質問)

皮革排水に含まれる重金属はどのようなものであるのか。

(答弁)

処理前の下水汚泥に含まれる主な重金属として、六価クロムがある。六価クロムは非常に有害な物質であり、兵庫西スラッジセンターで一旦焼却した後にさらにガス化溶融を行い、スラグ化した中に閉じ込める形で処理を行っている。

(質問)

漁獲量の減少などの深刻な課題の要因として栄養塩類の濃度低下が指摘されているが、栄養塩類を供給するために下水処理場から播磨灘に排水を放流する効果について、どのように考えているのか。

(答弁)

放流の効果は分からないものの、瀬戸内海環境保全特別措置法で決められた栄養塩類の限界値になるまでは排水を放流している。しかしながら、栄養塩類の濃度が急に上昇し過ぎてしまうこともあり、放流の判断は慎重に行わざるを得ない。

令和 4 年度からは排水期間を 1 か月延長して放流しており、影響がなければ期間を調整しながら放流を行ってきたい。

(質問)

栄養塩類を法に定められた限度まで排水を放流しているということなのか。

(答弁)

そうである。

役職定年者挨拶

上下水道局終了

12時01分

【建設委員会意見取りまとめ】

意見取りまとめ

12時04分

・分科会長報告について

正副分科会長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了

12時05分

閉会

12時05分